

# 県外派遣報告書

栃木県バスケットボール協会 審判部

<b>大会名</b>	<b>第75回関東高等学校女子バスケットボール選手権大会</b>	<b>開催地</b>	<b>群馬県</b>
<b>報告者名 (所属連盟)</b>	栗原萌音 有坂明子 田中由紀子	<b>派遣期間</b> 令和 3 年 6 月 12 日 ~ 13 日	
<b>参加者 (所属都県)</b>	本部：平原勇次（東京）、大庭英裕（神奈川） 指名：渡邊整（栃木）、古畑香子（茨城）、村上恵美（神奈川） 派遣：根反祥恵、坂美佑紀（茨城）、若林哲、藤林比登美（埼玉）、佐田幸一（山梨） 茂泉圭治、藤本梨紗（神奈川）、中島弘幸、大坪綾音（千葉）、嶋崎貴、瓜田真司 千葉美幸、六角亜沙美（東京）、梶崇司、栗原萌音（栃木） 山本渚、矢部沙織（茨城）、山宮紅葉、小泉恵（埼玉）、内藤敦子、雨宮恵 三沢奈央（山梨）、佐々木寛子、飯田はるか（神奈川） 田村夏美、野口祐子（千葉）、田中由紀子、有坂明子（栃木） 四方田麻菜美、飯塚典子（群馬） 他群馬県審判員		
<b>【審判会議内容】</b> 今回はコロナウイルス感染予防のため、ZOOMでの審判会議  ・ コロナ禍の中で、どんな対策をしていくか →自分の割り当てに間に合うように会場に行き、審判が終わり次第速やかに帰宅 消毒を徹底する（審判、選手共、消毒をしてからコートに入るようにする 試合時間を定刻にして消毒をしてから次の試合を開始する ゲームボールは毎ピリオドごとに消毒する マスクの着用と徹底する（ゲーム中は特に）  ・ 宿舎、割り当て、会場案内について			

# 県外派遣 審判 ミーティング 記録表

審判員名 栗原 萌音 U1

割当日	6月12日(土)	CG	村上 恵美(神奈川)
カード	昭和学院高校(千葉)—市立前橋高校(群馬)	U2	六角 亜沙美(東京)
◇ ミーティングの内容			
○メカの確認			
・アイコンタクトを取りながらゲームを進めていくことが出来た。			
・リードの時に積極的にローテーションをすることで、プレーに見に行けた。			
○ベンチコントロール			
・ベンチの管理が必要になるケースについてゲーム前のPGCで話し、クルーの中で共有することで共通した理解でゲームを進められた。			
○ショットクロック			
・ショットクロックについて、リセットか継続かを確認しながらゲームを進めていく。			
《審判主任》 なし			

割当日	6月13日(日)	CG	小澤 朋克(群馬)
カード	実践学園高校(東京)—市立船橋高校(千葉)	U2	八木原 零(群馬)
◇ ミーティングの内容			
初めに、勝ち上がりチーム同士の対戦だったので、試合を一緒に見ながら分析をした。			
○ゲーム基準			
・お互いに2試合目、ということもあり足が動かなくなることで疲れがでてきてしまうことを予想			
・ショットファウルが多くあったため、同じものは同じように吹き続けることができた			
・自分のプライマリーを吹き逃さないようにする			
○ベンチコントロール			
・コーチがマスクを外してしまうことが多くあったが注意をしながら進行ができた。			
・選手はコートに入る前に消毒をすることが徹底して指示ができていた。			
《審判主任》 なし			

<p><b>【感想・県内審判員へ伝えたいこと】</b></p> <p>今回の関東女子は栃木県の派遣審判員として、初めて派遣をさせていただけた大会でした。コロナ禍ということもあり、いろいろと縛りがあった大会になりましたが、関東の審判員の皆様と関わる機会が大会で感じられたことは、私にとってとても勉強になった2日間でした。</p> <p>審判では、公式戦として関東レベルの試合を吹くことに嬉しさを感じると共に、自分の力を精一杯出せるよう取り組みました。他県の初めてお会いした方と吹くことの難しさも感じるなど、県外大会に参加できなければ分からないことを身をもって感じることで、とても貴重な時間を過ごすことができました。</p> <p>これからの審判活動に今回の経験を生かし、さらにレベルアップを図っていきたいと思っています。</p> <p>最後に、今回このような経験を与えていただいた梶審判委員長をはじめ県内審判員の皆様、大会関係者各位に心より感謝申し上げます。</p>
--

# 県 外 派 遣 審 判 ミ ー テ ィ ン グ 記 録 表

審判員名 有坂明子(CG)

割当日	6月12日(土)	U1	野口祐子(千葉)
カード	山村学園(埼玉)76×55白鷲(神奈川)	U2	山本渚(茨城)

◇ ミーティングの内容

- ・インサイドの選手に対してのDFの寄せについて→シリンダーから外れているものはコールすべき
- ・リバウンドの整理→自分のエリアで起こっている見るべきものを長く見て判定に結びつけられるように
- ・トレイル、センターでボールウォッチになっている時がある

《審判主任》 手塚 清孝 氏

**【感想・県内審判員へ伝えたいこと】**

今回、初めて関東大会に参加させていただきました。初めてのことも多く、良い緊張感で臨むことができました。初顔合わせのクルーで不安もありましたが、協力してゲームはスムーズに進めることができました。CGとしてクルーワーク、レフリーディフェンスを意識しながら臨みましたが、助けられるケースもありました。TOレポートなどの細かいところも1つ1つ丁寧にできるよう、今回の課題を意識して取り組んでいきたいと思えます。

最後に、今大会に派遣して頂いた梶審判長をはじめ県内審判員の皆様、お世話になった群馬県審判員の皆様、他県の派遣審判員の皆様および大会関係者各位に感謝申し上げます。有り難うございました。

# 県外派遣 審判ミーティング記録表

審判員名 田中 由紀子(U1)

割当日	令和3年6月12日(土)	CC	飯田 はるか(神奈川)
カード	文化学園大学杉並高等学校-桐生市立高経高等学校	U2	田村 夏実(千葉)
◇ ミーティングの内容			
ゲーム全体: 笛を多く入れる必要の無いゲームであったと思う。その中で要所では判定を入れることが出来ていた。トラベリングについては特にレシーブした時の足元はもっと笛を入れた方が良い。			
個人: 積極的に笛を入れる場面が多かったが、その中で鳴らさなくても良い場面や、減らせるものがある。ダブルで鳴らしているものでも、相手に任せ方が良いものがある。Open angleの取り方の改善、プライマリリーの再確認、チェックイン・チェックアウトのタイミングの改善により捉え方や見え方が変わり、判定も変わって来ると思う。			
《審判主任》中山 克則氏(茨城)			

【感想・県内審判員へ伝えたいこと】
今回、初めての関東高校派遣となりました。緊張もありましたが、公式戦ということもあり、何よりチームにとって良いゲームになるように、という気持ちで臨みました。コロナ禍ということで、クルーとはzoomやlineを利用しながらPGCを事前に行いました。沢山の意見交換の中で、クルーの試合に対する細やかな試合に対する意識の高さや、考え方、プレーに対する突き詰め方は素晴らしく、感銘を受けました。私自身の言葉や笛で根拠を示す力の無さ、技術の理解や審判に対する考えの浅さを痛感しています。もっとバスケットボールのレフリーを追求し、一つ一つの試合に合わせた笛を吹ける様になっていきたいです。今回の経験で感じたことを大切に、より良いゲームの為に考えを深め、判定の根拠を笛や言葉で示せる様、努力していきます。
今回の派遣に際しまして、梶審判長をはじめ、県内の皆様の御配慮、御指導に、心より御礼申し上げます。
今後とも御指導御鞭撻の程、宜しくお願い致します。